

「第 10 回おでかけ交通博 2025in あいづ」を開催しました！

令和 7 年 10 月 10 日（金）に会津若松ワシントンホテルにおいて「第 10 回おでかけ交通博 2025in あいづ」を開催しました。（共催：会津若松市 協力：福島大学）

「おでかけ交通博」は、主に地方公共団体の交通担当者や交通事業者等を対象として、喫緊の課題である地域の「おでかけの足」について考えるきっかけとするべく、福島大学の協力を得て、平成 27 年より開始し、これまで 9 回、東北各地で開催してきました。新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、オンライン形式の特別版として開催した時期もありましたが、今年も鶴岡に続き対面集合形式で開催することができ、過去最多の総勢 238 名の参加となりました。

午前中は「トークセッション with 東北仕事人」と称し、開催地域の交通やまちづくりに携わる方々と、東北各地の公共交通に携わる有識者である「地域公共交通東北仕事人」（以下、「東北仕事人」）にご登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。東北仕事人でもある福島大学・吉田樹教授にコーディネーターを務めていただき、パネリストとしては、地元団体である金川町・田園町住民コミュニティバス運営協議会、NPO 法人みんなと湊まちづくりネットワーク、東北仕事人である宇佐美誠史教授（岩手県立大学）、柏木康豪主幹（会津若松市情報戦略課スマートシティ推進グループ）にご登壇いただきました。

各登壇者からは、「地域のおでかけの足として公共交通を考える」をテーマに、会津若松市内で実施されてきた「さわやか号」・「みなとバス」の取組みやそれらの取組を支えてきた行政側・有識者の視点も交えてご議論をいただきました。



【トークセッションの様子】

午後には、東北各地の自治体や交通事業者などの計 30 団体に出展いただき、ポスターセッションを実施しました。各団体から 1 分間で取組を PR していただき、その後、取組をまとめたポスターや資料により、それぞれの取組について説明いただきました。参加者は興味関心のある団体の取組について、担当者より詳細を伺いながら意見交換を行いました。



【1 ミニッツPR・ポスターセッションの様子】

翌日 11 日（土）にはエクスカージョンを開催しました。A・B の 2 コースに分かれて、鉄道とバスを利用しながら施設等を見学し、会津若松市内の「おでかけ」を体験していただきました。

A コース：会津鉄道「お座トロク展望列車体験乗車」



【お座敷トロク列車（花号）】



【列車内での物産販売の様子】



【湯野上温泉駅】



【湯野上温泉駅隣接の足湯】

Bコース：吉田ゼミ生と行く「おちょこパス」「あいづ〜ぽん」体験ツアー



【あかべえ】



【末廣酒造での酒蔵見学】



【ハイカラさん】



【福西本店での見学】

大変多くの方にご参加いただき、盛況となりました。また、参加者の皆様から、「大変有意義だった」「参考になる事例紹介がたくさんあった」など、多数の満足の声をいただいております。東北運輸局においては、今後もこのような機会を通じて、地域の「おでかけの足」の確保・維持・活性化に係る取組を後押ししていきます。